

「研究大学強化促進事業」ロジックツリー・ロードマップの今後の活用方針（案）

ロジックツリー・ロードマップについて

【目的】

- 各機関における「将来構想」実現に至るまでの道筋の見える化を図り、その検証や改善に役立てる。
- フォローアップの合理化・省力化。

【作成概要】

- 2017年度に実施した中間評価における「将来構想報告書」に基づき作成。
- インプット（予算）及びアウトプット（取組内容）は、2018年度の事業計画に基づき作成。
- アウトカムについては、各機関が独自に設定。
このため指標の数や設定・目標年度、目標レベル等が異なる。
（ただし、状況把握の観点から、直近年度（今回については、2017年度）の実績値を記載。）
- 毎年度実施するフォローアップを通じて、必要に応じて見直す。

【今回作成したロジックツリー・ロードマップへの対応】※前回(2019年2月)の推進委員会において決定

- 委員からのコメントについては、2018年度フォローアップの結果通知とあわせて各機関へ通知し、必要に応じてロジックツリー・ロードマップの修正を行うことを依頼。
（ただし、修正した時点での推進委員会への提出は求めず、当該修正は2019年度フォローアップで確認。）
- ロジックツリーの作成は、EBPM的手法の横展開を図るものとして今回が初めての試みであることから、今後1年程度の期間をかけて、各機関で利活用や横展開を図りつつロジックツリーの完成度を高め、2019年度フォローアップ結果公表のタイミングで公表。

2019年度以降のフォローアップにおける活用方法（案）

(1) フォローアップの項目・観点について

- ◆ 各アウトカムについては、各機関により指標の数や設定・目標年度及び目標レベルが異なるため、アウトカムの達成度のみで一律の評価を行うことは適切ではないため、評点は付さないこととする。
- ◆ 委員会コメントへの対応状況、アウトプットの実績・アウトカムの状況、それらを踏まえた事業の強化・取組転換等の状況を確認し、必要に応じてコメントを付すこととする。
- ◆ あわせて、本ロジックツリー・ロードマップを各機関の研究力強化にあたり（PDCAサイクルを回すにあたり）、どのように活用しているのかについて確認する。

(2) フォローアップ結果の活用について

- ◆ 委員会コメントへの対応が著しく反映されておらず、将来構想の達成に疑義がある場合には、補助金の配分への活用を検討することとする。